

ハウスミカンの微量元素欠乏および過剰障害について

原田豊・大熊正寛・坂井義春・井上宏*

香川県下のハウスミカン園において、葉や果実に微量元素の欠乏あるいは過剰に由来すると思われる生理障害が散見されたので、それらについて葉中要素含量および土壌化学性を調査した。

1. 葉の先端部が黄変し、落葉する症状を呈した樹の葉中 B 含量は 175~591ppm と過剰の範囲に達しており、葉面散布による B の適用が原因であることが明らかになった。
2. 数園のハウスミカン園において、果実に多数の赤褐色斑点を生じ、甚しい場合には裂果する症状が現われたので調査したところ、葉中 Cu 含量が対照樹に比べて低く、欠乏の範囲にあった。
3. 数園のハウスミカン園において葉脈の間が淡緑になり、葉脈だけが緑色に残る症状や、肋骨状の鮮明な黄白色の斑入りになる症状が現われたが、被害樹の葉中 Mn および Zn 含量はそれらの要素の欠乏あるいは、それに近い低濃度であった。